

ヒロシマから最も近い原発 もし、伊方で大事故が起こったら？

講演会 伊方原発問題を考える

—伊方原発反対運動40年の歴史と現状—



円は原発防災域 30キロ圏

中国新聞 10月 21 日付

1月 21日 (土)



13:30 ~ 16:30

広島市国際青年会館 7F 研修室 (アステールプラザ内)

広島市中区加古町 4-17 082-247-8700

参加費：1,000 円

お話：近藤 誠さん (伊方原発反対八西連絡協議会
元南海日日新聞記者)

★プロフィール

近藤誠さん (64歳) は長年、現地反対運動の中心を担ってこられた方です。故斎間満さんが創設した南海日日新聞の記者として八幡浜市に移り住み、大手メディアが報道しない原発問題の真実を伝えてこられました。裁判にも関わり、2号炉裁判では、本人訴訟で自ら書類を作成し、危険な活断層の問題を争点とされました。3.11福島原発事故以降、毎月11日、ゲート前で伊方原発を止めようと座り込みをされています。

四国電力伊方原子力発電所は、広島市内から南西に 100 キロ、1977 年に 1 号機が運転を開始し、3 基合わせて約 202 万 kW の出力です。福島第一原発事故の状況を見て明らかのように、事故が起これば偏西風と海流によって、広島はもちろん、少なくとも瀬戸内一帯は放射能に汚染されてしまいます。

原発沖 6 キロに中央構造線という巨大活断層があり、マグニチュード 8 クラス、最近では南海トラフにより 9 クラスの地震が起こると指摘され、1・2 号炉は 30 年以上の老朽原子炉であり、地震対策は不充分といわれています。また、3 号炉はプルサーマル運転をしており、猛毒のプルトニウムがまき散らされる可能性のある非常に危険な原発です。

40 年もの間、記者として伊方原発問題をとらえ、反対運動を担ってきた近藤誠さんから、運動の歴史、伊方原発の危険性や最近の情勢、地元住民の思いを伺い、あきらめない粘り強さを学びたいと思います。近々 2 号炉が定期検査に入り、3 基とも止まった状態になります。伊方原発の再稼働を許さず、日本の原子力政策を変えていく世論をつくりましょう。



主催：入れるな核艦船！飛ばすな核攻撃機！

ピースリンク広島・呉・岩国

共催：上関原発止めよう！広島ネットワーク

連絡先：広島市中区大手町 43-10 (広島YWCA 気付) 090-3373-5083 (新田)